浦幌町の外来種を考える（2）

円　子　紳　一

浦幌の外来種における新知見

浦幌町立博物館紀要第13号（2013年3月31日発行）に「浦幌の外来種を考える」と題して、北海道ブルーリストをもとに浦幌の外来種を紹介した。その中のカブトムシとミンクについて2013年に確認された事柄について紹介する。

カブトムシ（カテゴリー区分　Ａ２）

2012年7月30日に留真で1♂を採集したこと、数年前から瀬多来に定着しているようであることは同紀要に記したところである。

2013年8月に、ヒグマの調査に来町していた日本大学の鈴木晋悟君から旧常室小学校の街灯に複数のカブトムシが飛来しているとの情報が寄せられた。同月16日の夜に行ってみると、地上にカブトムシの死骸を確認した。

十勝毎日新聞（2013年10月13日）では「カブトムシ十勝に定着」との大見出しで、生育状況などと果樹などへの食害や生態系への影響が懸念されると報じられた。

ミンク（カテゴリー区分　Ａ１、外来生物法の特定外来生物）

紀要第13号でウチダザリガニやアライグマとともに浦幌町への侵入も十分に考えられると記した。

2013年3月20日に、豊北でその姿を確認した。犬に追いかけられたらしく道路脇の木に登って難を逃れていた。午前10時頃に発見され、午後1時過ぎに地上に降り、排水路の雪の下に出来た空洞に潜り込んだ。

野口昌靖さんによると1963年頃から7年間位、豊北地区（トイトッキ沼付近）でミンクの飼育が行なわれていたとのこと。野口さんは「生き残りかもしれない」と話していた。

豊北で確認されたミンク
（2013年3月20日撮影）

おわりに

チョウ類のウラナミシジミは、房総半島南部以南に分布している。春から秋にかけて世代を繰り返し北上するが、越冬できずに死滅する。北海道でも越冬できず生息はしていないが、台風に乗って飛来することもあり、地球温暖化が進むと外来種として定着する日が来るかもしれない。人間活動の影響以外でも日々変化しているのが自然であり、地球である。変化する生態系にも気を付けたい。情報を提供していただいた鈴木君、野口さんに感謝申し上げる。

参考文献

白水　隆（2011）「日本産蝶類標準図鑑」 第３刷
円子紳一（2013）「浦幌町の外来種を考える」［浦幌町立博物館紀要第13号］
浦幌町百年史編さん委員会（1999）「浦幌町百年史」